

# RESULTS JAPAN ANNUAL REPORT



# 08

A u g u s t

令和2年度  
事業報告書

2020年08月02日

---

## 異動の季節です

魔法使いのどーらが主戦場としているのは、永田町と霞が関。  
霞が関は今、異動の季節です。

大変お世話になった岡本薫明前事務次官がご退任され、太田充前主計局長が事務次官に就任されました。

岡本前事務次官には長年にわたり、大変お世話になりました。  
白須と岡本前事務次官の長年にわたる親交については、日本リザルツのブログをご参照下さい。

右から二番目が岡本前事務次官です。

私たちのような一NGOの意見にも真摯に耳を傾け、自己の利益を度外視し、本当に日本がすべきことは何かを一生懸命考えてくださった岡本前事務次官。どーらはじめ職員一同、心より感謝申し上げます。



また、GGG+フォーラムにもお越しくくださった外務省の塚田玉樹前地球規模課題審議官は、米国の総括公使にご栄転されました。

春は出会いと別れの季節とよく言いますが、どーらにとってはこの時期が出会いと別れの季節。お世話になった皆様に心より感謝申し上げるとともに、新たなご縁がどのような形で生まれるのかワクワクしています。

2020年08月03日

## 逆にパワーをもらいました

鮮やかなアフリカプリントの布、幾何学模様、動物、お金、電気製品。

今、アフリカ生まれのファッション、デザインが世界で注目を集めているようです。

「クールでエネルギッシュなアフリカ」の豊かな伝統や文化、歴史は、内向きになり閉塞感が漂う先進国に新しい風を届けてくれました。元気になれるデザイン力です。

8月2日 日本経済新聞 朝刊より。



## 教育について議員会館にアドボカシー活動

日本リザルツは貧困問題をはじめとした世界的課題の解決を目指し、国会議員や政策立案者らに働きかけるアドボカシーをミッションの一つにしています。

日本リザルツはこのほど、7月13日に開催したGGG+フォーラムの教育セッション「教育は世界を変える」でご挨拶して下さった三原朝彦議員、小田原潔議員、栄養セッションの総括をして下さった逢沢一郎議員の議員会館事務所に、資料とお花をお持ちいたしました。

資料は、「教育のためのグローバル・パートナーシップ(GPE)」のアドボカシーペーパーと

ユネスコがまとめた「グローバルエデュケーションモニタリングレポート2020・インクルージョンと教育」の日本語版概要です。

新型コロナ禍のため世界中で学校が閉鎖になり、再開が遅れています。長すぎる学校からの隔離は、オンラインの環境や教材が整わない途上国、特に低所得の家庭、女の子といった立場の弱いところにより大きな影響をもたらします。

教育は、すぐに生き死にに関わるものではありませんが、未来への投資です。支援のプライオリティーをつけるときに後回しにされがちですが、そうならないように更なる努力を続けたいと思います。



2020年08月04日

## 「ワクチン争奪戦で出遅れているのが途上国だ」 ～日本経済新聞(2020年8月3日)

新型コロナウイルス対策についての日本経済新聞の記事です。途上国は自国でワクチンを製造できず、外国からの調達についてもコスト面の問題を解決できていません。記事は「世界に公平にワクチンを分配する知恵が求められている」と結ばれています。

さて、新型コロナウイルスワクチンを世界に公平に分配する仕組みとして、Gaviアライアンスが立ち上げたCOVAXファシリテイがあります。日本がこのような仕組みに対して拠出することで、日本と途上国がともに裨益することを祈っています。



## ワクチン6,000万人分の供給を受けることで基本合意～日本経済新聞(2020年8月1日)

日本政府は、新型コロナウイルスのワクチン6,000万人分の供給を受けることで米国ファイザー社と基本合意しました。

さて、6,000万人分のみでは全国民に届きません。この新聞記事には取り上げられていませんが、日本人用のワクチンを確保できる仕組みとして、Gaviアライアンスが立ち上げたCOVAXファシリテイがあります。COVAXは途上国と先進国がともに裨益する仕組みです。



## COVAXファシリテイ

8月3日(月)参院議員会館にて合同会議が開かれました。

「COVAXファシリテイ」について厚生労働省から説明があり、ビル&メリンダ・ゲイツ財団の柏倉美保子日本代表と公明党新型コロナウイルス感染症ワクチン・治療薬開発推進プロジェクトチーム(座長=高木美智代衆議院議員)は意見交換をしました。当団体代表もこの会議に招かれ参加しました。

「COVAXファシリテイ」は、当団体も応援する「Gaviアライアンス」等が主導。参加する高所得国と中所得国が、研究開発等に使われる資



金を”前金”として払う事により、人口の20%分を上限にワクチンを自国で確保、低所得国にはGaviを通じて配布されるシステムです。

今月8月末の期限までに参加表明をされるのか？注目しています。

2020年08月05日

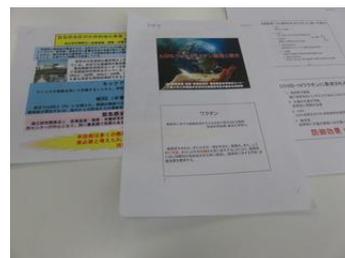
## 霊長類医科学研究センターの保富康宏氏が公明党の合同会議で講演

公明党の新型コロナウイルスの感染症ワクチン・治療薬開発推進プロジェクトチーム、医療制度委員会、厚生労働部会の合同会議が4日午後、参議院会館で開かれ、国立研究開発法人・医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医科学研究センター長、保富康宏氏が講師になり、「モックアップワクチン その他のワクチン」をテーマに講演されました。

今回の会議は、7月13日に行った「GGG+フォーラム東京・思いやりサミット2020」のランチセッションで、公明党の秋野公造議員がモデレーターになり、保富氏がパネリストだったことが契機になっています。日本リザルツ代表の白須が、保富氏を秋野先生のところにお連れするべくアレンジしたところ、最先端のワクチン開発状況を公明党の部会として勉強したいということになり、この日の会議になりました。

会議で、保富氏は、日本を含め少なくとも15種類の新型コロナウイルスのワクチン開発が進んでいることに言及。同氏が研究開発に関わっているレプリコンを使った自己増殖RNAワクチンが、mRNAやアデノウイルスのワクチン等と比べて安価で大量生産に向いており、日本の全人口に向けて短期間でワクチン生産できること等を説明されました。公明党の先生方も「ワクチンの開発状況がよくわかった」と保富氏に感謝されていました。

ワクチン開発のカギを握るのが保富氏です。同氏は日本リザルツの応援団でもいらしてください。引き続き、ワクチンの最新情報を保富先生を通じてお届けできればと思っています。



2020年08月06日

## 公明党合同会議-2

昨日のブログの件が本日の公明新聞に掲載されましたので紹介いたします。

議員の方達からはとても勉強になったと好評をいただいたそうです。



2020年08月07日

## 世界2,400万人が教育中断も

日経新聞のニューヨーク発で、世界2,400万人の子どもたちが、新型コロナ感染拡大の長期化で教育が中断される可能性があるという記事が8月6日付で掲載されていました。

7月13日に行ったGGG+フォーラムの教育セッションで、現役大学生たちが、自分たちが遠隔授業となり、友だちとの絆をつくることができずに精神的に落ち込んだり、オンライン教育の限界についての切実な声があがりましたが、世界の低所得層や途上国におかれている子どもたちへの影響は更に大きなものです。

新型コロナ感染拡大前から教育予算が年間160兆円不足しており、コロナの影響で更に、国際的な援助が必要だという、とても重い記事でした。



## 外務省へ教育についてアドボカシー活動

教育についてアドボカシーを続けている日本リザルツは6日、外務省の地球規模課題総括課の前川秀信上席専門官、青木めぐみ課長補佐にご挨拶と、開発途上国がコロナ禍で受けている教育課題についてご説明と意見交換に参りました。

前川氏は、これまで7月13日に行ったGGG+フォーラムの教育セッションや、5月に催した「GPEオンライン勉強会 今、教育に求められることは」でご登壇いただいた、中川浩一地球規模課題分野別交渉官が急遽お辞めになられたことからその後任も兼務されています。青木氏は、これまでお世話になっていた齊藤順子氏の後任でいらっしゃいます。

お二方とも、熱心に私たちのお話を聞いてくださり、また、非常に実のあるアドバイスをくださいました。

この時期、これまでお世話になった方の異動も多く、寂しい限りではありますが、また、新たなネットワークを築く機会にもなります。35度を超えるうだるような暑い日々が続いていますが、官僚の方々は補正や通常予算等新型コロナを受けた案件も多く、休みもなく働いてくださっており、感謝したいと思います。



2020年08月09日

## 水に流せないダム問題

日本リザルツはSDGs 6「安全な水とトイレを世界中に」の実現を目指し、アドボカシー活動をしています。

しかし、筆者が駐在するケニアのお隣・エチオピアと周辺諸国でこんな事件が勃発しているので、紹介させていただきます。

現在、ナイル川の水を巡って、対立が起きています。問題となっているのは、エチオピアが建設している「グランド・エチオピアン・ルネサンス・ダム」(写真)。エチオピアがナイル川上流に2011年から9年かけて作っている、総貯水容量740億立方メートル(完成すれば世界7位)の超巨大ダムで



す。総工費は約48億ドル(約5,100億円)です。エチオピアは、人口増加と経済発展に伴う電力不足が深刻な問題で、このダムを利用し、水力発電を行おうと計画しています。水力発電の能力は6,450メガワットとアフリカ最大になります。

現在、ダム本体は80%、発電施設は60%ほど工事が完了している状況で、エチオピア政府は7月にも貯水をした意向を表明しました。

しかし、これに反発したのが、ナイル川下流に暮らすエジプトとスーダンです。9割以上の水をナイル川に依存する「ナイルの賜物」=エジプトは国の存亡に関わると猛反発をしています。

アメリカやアフリカ連合(AU)が仲裁に入り、エチオピア、エジプト、スーダンの3か国で話し合いが行われていますが、歴史的背景等もあり、なかなかうまくいっていないのが正直なところです。

全ての人がきれいな水にアクセスできるよう、平和的な問題解決がなされることを心より願っています。

2020年08月12日

## ココア(COCCA)利用 メリット

厚生労働省が、6月19日から運用を開始している接触確認アプリ、COCCA。

しかし、アプリ導入率は、とても低いそうです。意外にも若者の導入率が低いということです。

しかし、IT関係者の間では、今後、一気に増えるだろうと予想されているようです。

それは、皆さんのスマホが「OSアップデート」要と表示された機会です。

OSアップデート時、同意すると自動的にCOCCAが稼働し、陽性者と接触すれば通知されるとのことです。



利用メリットを利用者本人が実感できる、それが普及につながる仕組みかと思います。山梨県が表明したアプリの接触通知を受けた人がPCR検査を確実に受けられるという仕組みはとても有効だと思います。

現在の感染者増加の裏には、このPCR検査を確実に受けた人が増えたことが要因としてあるのでしょうか。

## 所内勉強会の開催 ストップ結核パートナーシップ 竹中伸一先生「結核終息のための世界計画 2018-2022」～日本の声を反映させる

日本リザルツは、ストップ結核パートナーシップ(以下、ストップTB)が発行したThe Global Plan to End TB 2018-2022の日本語訳を作成しました。冊子「結核終息のための世界計画 2018-2022」は刷り上がり、現在、私たちはその発送準備を進めています。

さて、この冊子に関連し、私たちは2020年8月11日に所内勉強会を開催しました。講師は、お盆でジュネーブから一時帰国された竹中伸一先生(ストップTBテクニカルアドバイザー)です。

私は、このような発行物や計画に日本の意見や経験をどのように反映させていくのかという部分に興味を持ちました。

まず、ストップTBのような組織に日本人を派遣する意義を強く感じました。竹中先生によれば「作る側の思いは入ってくる」そうです。この冊子には日本やインドの事例が登場します。これは、本冊子作成の事務局を務められたのが日本やインドの方であり、勝手に書いている訳ではないのですが「最初の取捨選択のところで、自分たちが詳しいところが反映されやすい」そうです。

また、プロセスやチャンネルを把握することが大切なのだと私は感じました。この冊子を作成するためのパブリックコメントには180程度の声が集まり、ストップTBはひとつひとつのコメントに対応しその履歴を残したそうです。特に欧米の



企業は「個別に相談させてください」と、自分たちが盛り込みたい内容を書いてくるそうです。しかし、日本企業からのパブリックコメントは一切なかったとのこと。

最後に、大変興味深いお話をお聞かせいただいた竹中先生に感謝申し上げます。



2020年08月13日

## 茂木外務大臣、シンガポールでCOVAXを使った 国際協力を言明

日本リザルツが、新型コロナのワクチン確保のためにアドボカシーを進めている「COVAXファシリテイ」について本日(13日)、嬉しいニュースが入ってきました。茂木敏充外務大臣が、新型コロナの世界的拡大後初のアジア訪問国となるシンガポールで、新型コロナの世界的な感染拡大を転換するには、ワクチンの開発、普及が不可欠であり、公平なアクセスを確保するためには「COVAXファシリテイ」が重要な取り組みであることについて同国外相と一致したと記者会見で発表しました。外務省の報道資料によると、茂木大臣は「新型コロナの収束のためには途上国支援が必要であり、COVAXファシリテイを通じた国際協力も進めていきたい」と述べたそうです。

## 外務省、初訪問

8月からリザルツでインターンをするようになった園田です。  
初投稿になります！

8月6日に、白須代表と杉浦副代表と一緒に、初めて外務省を訪問しました。

省庁で働かれている方と直接お話する機会は初めてだったので、とても緊張しましたが、あっという間に話し合いも終わっていました。インターン初日にも関わらず、貴重な経験を積ませて頂きました！これからもたくさん経験を積ませて頂き、たくさん学びたいと思います！

## 新しいインターンさん

8月11日からインターンとして創価大学3年生の園田さんが加わってくれました。園田さんは2018年12月に開催されたGGG+フォーラム東京2018に参加し、発言もしてくれました。

いままで創価大学からはお二人のインターンの方たちに来ていただきましたが、お二人とも優秀でしたので、園田さんにも期待大です！

リザルツで様々なことを吸収して成長していただけたら嬉しいと思っています。

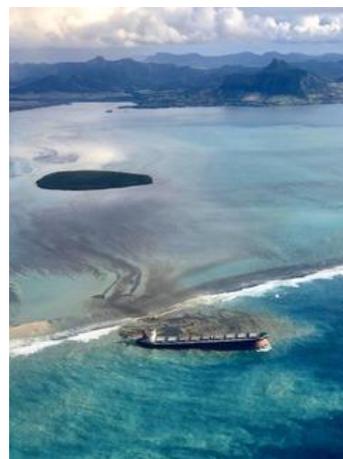
2020年08月16日

---

## 水に流せない重油問題：モーリシャス沖で日本の貨物船が座礁

トムソーヤの冒険で知られる作家の故マーク・トウェインが「神は最初にモーリシャスを創り、モーリシャスをまねて天国を創った」と評したモーリシャスの風景。その大自然が今、危機にさらされています。

日本時間の先月26日(現地時間25日)、日本の会社が運航する貨物船がモーリシャスの沖合で座礁し、その後、約1,000トンの重油が流出したとみられています。



報道によると、船内に残っていた燃料についてはほぼ回収されたとする一方、流れ出た重油のうち、回収できたのは半分程度にとどまっているということで、すでに大量の重油が



現場近くの海岸に漂着している状況です。

写真で見るとその深刻さがわかります。

観光業が産業の要のモーリシャス。売りはもちろん「きれいな海」です。コロナが漸く落ち着き、経済回復のために観光業を再開させようとした矢先の事態でした。

座礁したのは日本企業の貨物船です。

漸く、小泉環境相が専門家を派遣したと会見をしました。フランスのマクロン首相はすでに1週間前に宣言を表明する等、速やかな支援を行っています。

地元の環境団体によると、回復には数十年を要するということです。

持続可能な開発目標(SDGs)の目標15は「陸の豊かさを守ろう」。日本は気候変動枠組条約締約国会議(Conference of the Parties、COP)の議長を務めた経験もあり、京都議定書、名古屋議定書の締結等、環境問題に力を入れてきた国です。

環境に深刻な打撃をもたらした今回の事故。事態の速やかな收拾のためにも、日本の更なるリーダーシップが発揮されることを願ってやみません。

2020年08月18日

---

難病ALSを発症された医師の記事～

## 絶望から受容へ

8月10日の毎日新聞に、難病のALS(筋萎縮性側索硬化症)を発症された医師竹田主子さんの寄稿記事が載っていました。

竹田さんは、ALSの女性に対する囑託殺人容疑で医師2名が逮捕された事件について、医師の倫理観欠如や、病気を苦に自殺を望む人々の存在に苦慮されています。

竹田さんが絶望を乗り越えられ、「たぶん、健康な皆さんと同じ感覚で生活しています」と言えることがすごいなと思いましたし、これはとても力強いメッセージであるように感じました。ALSのご自身を受容するのに4年かかり、仮に自殺ほう助(安楽死)が認められていれば自殺を選ばれていたかもしれないとのこと。前向きになれたきっかけとして、24時間ヘルパーさんの介護利用が行政から認められたことと、視線入力可能なパソコンを導入したことを挙げていらっしゃいます。

難病の皆さんにも希望が持てる社会になるよう願っています。



2020年08月19日

## 公明党の齋藤鉄夫幹事長～

### COVAXファシリテイ

新型コロナウイルスのワクチン確保が喫緊の課題となっていますが、公明党の齋藤鉄夫幹事長が稲津久・厚労副大臣と遠山清彦・財務副大臣と会合し「COVAXファシリテイ」への参加を提言されたそうです。

これは素晴らしい動きだと感じました。

現在、日本政府は海外の製薬会社2社からワクチン供給を受けることに基本合意していますが、これらワクチンの開発が成功しないリスクもあります。ですから、COVAXのような国際的な枠組みを利用することで、ワクチン確保の可能性を高めることが求められていると思います。



2020年08月20日

## 遠山財務副大臣を訪問

インターンの園田です。

先日、白須代表と一緒に議員会館を訪れ、公明党の遠山財務副大臣にお会いさせていただきました。遠山副大臣は、私の大学・学部のOBで、私がそのことを副大臣にお伝えしたところ、とても喜んでくださり、心から励ましてくださいました。大先輩が政治の舞台で活躍されている姿を拝見させて頂き、とても刺激的な経験になりました。社会に貢献できるような人に早く成長したいと決意を固めました。

## 分身ロボット OriHime

8月19日(水)の朝日新聞に日本リザルツが応援しているOriHimeの記事がありましたので紹介したいと思います。

OriHimeは吉藤オリィさんが開発した小さなロボットで、オンラインで遠隔にいる本人の意思で動くため、本人がその場にいるかのような存在感を共有できるものです。OriHimeを使って、障がいがある人も諦めなくて良い社会になるといいですね。



# スナノミ

昨日、「スナノミ症に関するYouTubeを見ていたら涙が出てきました」というお電話を受けました。

ネットで検索をしているうちに、日本リザルツの電話番号にたどり着かれたそうです。

現在、運動靴の受付は行っておりませんが、国連世界スナノミの日を認定して貰えるようアドボカシー活動を続けております。

世界スナノミの日創設が成されれば、運動靴支援よりも多くの人達をスナノミ症から救う事ができます。

### 受付終了のお知らせ — 現在、運動靴ご支援のご発送は受付けておりません。

現在、日本リザルツでは3月3日を国連「世界スナノミの日」にしようという活動を行っています。世界スナノミの日創設に努め、【糞子プロジェクト】が本格的に動き始めております。その結果、より多くの人々を裨益させることができます。

日本リザルツのWebサイトは先月、昔からご支援いただいているお取引様によりリニューアル。より見やすく美しくなりました。<http://resultsjp.org/> こちらも是非ご覧くださいませ。

受付終了のお知らせ — 現在、運動靴ご支援のご発送は受付けておりません。

現在、日本リザルツでは3月3日を国連「世界スナノミの日」にしようという活動を行っています。世界スナノミの日創設に努め、【糞子プロジェクト】が本格的に動き始めております。その結果、より多くの人々を裨益させることができます。

Q&A (Trail) プロジェクト  
ケニアの子どもたちにシューズを！

● **靴が買えないケニアの子どもたち。**  
子どもたちを助けるためにご協力をお願いします！

**靴が買えない子どもたちがかかる病気「スナノミ症」**

ケニア・ナイロビから乗り合いバスで10時間かかる農村、エスンバ村は、人口220程度の小さな村です。この村の子どもたちには、靴を履く機会がありません。はだしで生活していることが原因で、スナノミ症にかかり死んでしまっています。スナノミ症は、スナノミという一種による感染症で、むいた傷口には全身の病気につながる恐ろしい病気です。住んでいる人の死亡例のうち55%はスナノミ症が原因です。エスンバ村に住む人のうち、90%以上がスナノミ症感染の危険にさらされています。エスンバ村の子どもが通う公立学校は、生徒800名のうち、80%がはだし、またはサンダルで登校しています。

**日本リザルツで運動靴を回収しています！**

日本リザルツでは、みなさまから、あついに集った運動靴を回収し、ケニアの子どもたちに届けたいです。様子は日本リザルツの公式ブログでも紹介しています。現地に運動靴を届けるには、靴はもちろさん輸送費（トラック代）などもかかります。1人でも多くの子どもたちに靴を届けるよう、みなさまのご協力をお願いします。

Q&A (Trail) プロジェクト、お問い合わせ先

目的：ケニアの農村部で生活する子どもたちに、安全で快適な靴を提供すること。  
活動内容：回収した靴を修理・洗浄・消毒し、子どもたちに配布すること。  
活動期間：2014年10月～2015年3月（予定）  
活動場所：ケニア・ナイロビ近郊のエスンバ村  
お問い合わせ先：日本リザルツ株式会社  
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1  
TEL: 03-6262-8000  
Eメール: [info@resultsjp.org](mailto:info@resultsjp.org)

主催：日本リザルツ  
協賛：Q&A (Trail) プロジェクト 事務局 〒201-8528 東京都千代田区千代田1-1-1 [resultsjp.org](http://resultsjp.org/)

2020年08月21日

---

## GII、記念すべき第150回に

NGOと外務省が定期的に意見交換する「GII/IDI懇談会」の第150回が20日、開催されました。その記念すべき回に、7月13日に日本リザルツ主催で行われた「GGG+フォーラム東京」について報告させていただく時間をいただきました。

同懇談会は、日本が提唱する「人口・エイズに関する地球規模問題イニシアティブ（GII）」実現にむけ、NGOとの連携強化のために1994年発足しました。2000年の九州・沖縄サミットで「沖縄感染症イニシアティブ(IDI)」が発表されたことがきっかけで、エイズ以外の感染症も包括的に協議するため、同懇談会の名前に「IDI」も含まれるようになりました。

この日、議題は新型コロナのワクチンの国際供給システムにはじまり、来年に延期された東京栄養サミット、マラリアウィークそしてGGG+フォーラムと多岐にわたりました。オンラインではありますが、参加者で記念撮影。直接、みなさんに会える日が早くきますように。



2020年08月23日

---

## ポリオ、アフリカ地域はWHO根絶宣言へ 残るは2か国

世界中で猛威を振るう感染症のポリオ。日本リザルツもポリオ根絶に向けた活動の応援団です。今日は嬉しいニュースが飛び込んできました。

この度、アフリカ地域での根絶が宣言される見通しとなりました。アフリカで最後までポリオが残っていたナイジェリアで、世界保健機関(WHO)が25日に根絶を認定する予定です。これにより、世界でポリオが根絶されていないのはアフガニスタンとパキスタンの2か国のみとなります。

尚、今回のナイジェリアでのポリオ根絶にあたっては、日本政府も無償資金協力や円借款

等のスキームを活用し、大々的な支援をしてきました。

ポリオ根絶に向けた取り組みが更に加速することを期待しています。

2020年08月24日

## 結核終息のためのパラダイムシフト

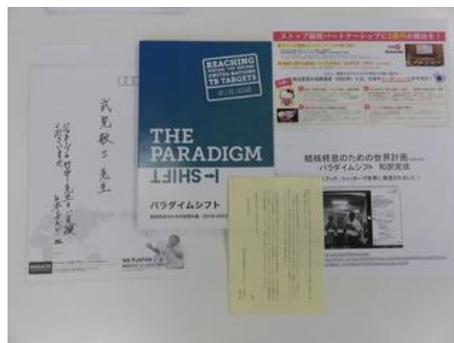
### 議員会館にお届けに

日本リザルツが和訳した、「パラダイムシフト 結核終息のための世界計画：2018-2022」を24日、ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟の議員の皆様のご事務所に、お届けにあげりました。

結核予防会結核名誉所長の森亨先生と、ストップ結核パートナーシップ・テクニカルアドバイザーの竹中伸一様のご指導のもと、日本リザルツスタッフ、OBが作りあげた力作です。

つい最近、帰国されていた竹中様と日本リザルツメンバーがこの本を持っている写真を、竹中様がフェイスブックやツイッターにあげてくださり、世界に紹介されました。

新型コロナ対策はもちろんですが、従来から課題となっている感染症対策としての結核を忘れてはなりません。



2020年08月25日

## ガザ地区で初めて 新型コロナウイルスの市中感染

本日の朝日新聞夕刊に「ガザ地区で初の市中感染」という記事が掲載されました。

ガザ中心部の難民キャンプに住む家族4人の感染が確認され、ガザ全域で48時間の外出禁止令が出されたそうです。



懸念していたことがとうとう起こってしまいました。

日本リザルトが応援している UNRWA の清田先生の心痛は如何ばかりかと推察されます。

2020年08月27日

## お祭り？

遂に、東京大学も国際的な大学と並んだぞ、と感じたニュースです。

大学債。大学の研究費、建物修繕等、国からの交付金・補助金(税金)だけに頼らない姿、素晴らしいなと思います。

大学債を購入するか否かの投資家目線が入る事により、大学の授業、研究も厳しい評価がなされ、より素晴らしいシステムになる事が予測されます。



## COVAXファシリテイこそ、地球規模の解決策！

8月26日の朝日新聞において、日本リザルツが推進している「COVAXファシリテイ」について、Gaviアライアンスの事務局長であるセス・パークレー氏のインタビュー記事が掲載されました。パークレー氏は、「地球規模の解決策が必要だ。周辺国にもワクチンが行き渡ることが、結局は自国の利益にもなる」と述べられました。

国際社会においてワクチン争奪戦やワクチン・ナショナリズムが危惧される中、COVAXは多国家間の協調とワクチンの公平な分配に大いに貢献すると考えられます。

誰もが安心して暮らせる生活が待ち遠しいですね。



## 三久ビルの入り口に手すりが付きます！

日本リザルツが入居している三久ビルは、建築後50年ほど経っている古いビルですが、最近内装をキレイにされています。

残念ながら、古いビルなので、バリアフリーではありません。

先日、オーナーの松野様にお会いした時に、入り口に手すりをつけて頂けないかとお願いしました。

理由は、日本リザルツの応援団のSさんから入り口に手すりが欲しいと聞いたからです。Sさんは脳性麻痺で足に障がいがあり、入り口のたった3段の階段がSさんにとって大きな壁となっているのです

入り口の階段に手すりを付けて頂けるとオーナーの松野様からお聞きしたので、Sさんに伝えたところ、下記のようなメールをいただきましたので紹介いたします。



嬉しいご連絡ありがとうございます。

涙がじわっとにじんできました。

私おかしいですね。

これで、私にとっての脅威が一つ減ります。

心が解放されていく感じがします。

こうやってひとつひとつ、少しずつでも環境が整備されていけば私が特別な人でなくなる、普通の人になっていって、社会に抵抗なく受け入れていただける私になっていくのだと思います。

いつも、私の人生にご尽力いただいて心から感謝します。

ありがとうございます。

三久ビルには、小泉さんが私を用いていただけるならば

もうしばらく通わせていただけたらと思います。

お会いしたことはありませんが、ビルのオーナーの松野先生にも

私の感謝の気持ちをお伝えいただけますでしょうか。

私が涙が出るほど喜んでいただくと。

心打たれるメールです。

## 夏休みなしの三原議員事務所へ訪問

日本・アフリカ連合(AU)友好議員連盟会長代行でもある、三原朝彦議員事務所を26日、日本リザルツの面々が訪れました。

三原議員は、日本リザルツの応援団でもあり、現職の議員の先生のなかで誰よりもアフリカの現場を訪問され、熟知されている方でいらっしゃいます。7月13日に行われたGGG+フォーラムの教育のセッションでご挨拶していただき、教育のためのグローバルパートナーシップ(GPE)の勉強会でも、一言を披露して下さいました。

話題は、日本リザルツがアドボカシーをしている教育、栄養、食料、農業、民間を巻き込んだパートナーシップと多岐にわたりました。

三原議員が気にかけていたのは、ケニア中央医学研究所(KEMRI)にある長崎大のケニア拠点や、ガーナの野口医学研究所です。

アフリカでも新型コロナの感染が広がっています。熱帯感染症のリスクが高く、アフターコロナ後の来るパンデミックに備えるため、感染症の研究拠点がアフリカでも必要です。三原議員の働きかけが大きく実を結ぶかもしれません。

2020年08月29日

---

## 新型コロナワクチン共同購入の国際枠組み COVAXファシリテイに関する新聞報道(2020年7月～8月)

臨床試験まで進んでもワクチン開発が成功しない可能性もありますので、リスク低減という観点からも複数のワクチン候補に同時に投資する仕組みは有効です。この点、国際枠組みであるCOVAXが対象とするワクチン候補の数は現在13です。また、自国民のためのワクチン確保は理にかなっているものの、新型コロナは国境を超えますので、発展途上国にもワクチンを届けながら、先進国も裨益する仕組みが必要です。以下、COVAXに関する2020年7月～8月の新聞報道を追ってみました。

2020年7月8日に日本経済新聞が「日欧、ワクチン確保へ協同買い付け 枠組みづくり調整」と題した記事の中で、日本政府が英独仏や欧州連合(EU)等と新型コロナウイルスのワクチンを共同で買い付ける枠組みを創設する調整に入ったと報じました。複数の国や機関が総額200億ドルを越す資金について、日本は最大約8億ドルの拠出を見込んでおり、開発企業から前払いで買い取ることで、企業にとっても開発の後押しになること、特定国のみでなく参加各国が受け取れるように人口の20%というワクチン供給の上限を設けること、Gaviアライアンスを通じて発展途上国にもワクチンが届くように工夫された仕組みであることが紹介されました。

8月3日には、公明党の新型コロナウイルス感染症ワクチン・治療開発推進プロジェクト(座長＝高木美智代衆議院議員)が、COVAXファシリテイについて、厚生労働省等から説明を受けました(公明新聞 2020年8月4日)。

8月11日の日本経済新聞によると、COVAXが2021年までにワクチン20億回分を確保する計画で各国の開発企業との交渉を本格化しました。米中は独自にワクチン確保に動いており、日英等が共同調達を模索。英国に加え、ノルウェー、カナダ、韓国、アルゼンチン等約75カ国が参加に関心を示していますが、日本政府関係者によると、EUが慎重な姿勢を示すようになり現時点で独仏は消極的。ただし、EU域内でもポルトガル等は関心を示しています。21年上半期にも参加国へのワクチン供給開始を目指すとのこと。

8月15日の公明新聞によれば、WHOからの情報として、8月11日にロシアが世界で初めて承認したワクチンについてはCOVAXファシリテイ対象外であるとのこと。

8月18日に、公明党新型コロナウイルス感染症対策本部の斉藤鉄夫本部長(幹事長)らが稲津久厚副大臣(公明党)、遠山清彦財務副大臣(同)に対してCOVAXファシリテイへの参加等を提言しました(公明新聞 2020年8月19日)。日本政府はこれまでに英製薬大手アストラゼネカ社から1億2,000万回分、米製薬大手ファイザー社から6,000万人分のワクチンを、いずれも開発が成功した場合に供給を受けることで基本合意しており、同提言では、ワクチンの有効性・安全性に関して必要十分な情報開示をさせる取り組みを求めました。その上で、効果が見られなかったり、重い副作用があったりする可能性等を踏まえ、更に幅広くワクチンの確保を探るための選択肢の一つとして、国際枠組みである同ファシリテイへの参加を提案。また、COVAXについては、同党の山口那津男代表も「高・中所得国が資金拠出の度合いに応じて優先的に確保できるとともに、低所得国への支援にも生かせる」と力説されました(公明新聞 2020年8月19日)。

8月19日の日本経済新聞は、感染症流行対策イノベーション連合(CEPI)のリチャード・ハチ

ェット最高経営責任者への取材記事の中で、CEPIはGaviアライアンスとともにCOVAXファシリテートを主導しており、COVAXが投資しているワクチン候補の中でも英アストラゼネカ・オックスフォード大学と米モデルナの2つは臨床試験が最終段階に来ていること、その他に米中独豪等7つに投資していることが紹介されました。ハチェット氏は、自国優先の国家主義は、自国民を守る上である程度は理にかなっていますが、各国政府がばらばらに動く国家主義が強まれば、配分の著しい不均衡をもたらす恐れがあると警告されました。

8月25日の日本経済新聞は「中南米、英から受託製造」という記事で、アルゼンチンとメキシコがワクチン受託製造の誘致を急いでおり、両国とも中南米のワクチン供給拠点となり周辺国に供給する構想を描いていますが、需要に対して供給能力が十分でないことも紹介しました。同記事は、ワクチンを世界に公平に供給する目的で設立されたCOVAXファシリテートへの参加をWHOが各国に呼びかけていますが、参加締切が近づいており、米国や中国等は参加に消極的とみられると結びました。

8月26日の朝日新聞は、COVAXを主導するGaviアライアンスのセス・バークレー事務局長への取材記事を掲載しました。バークレー氏は、ワクチン確保に関する自国優先の国家主義について2009年の新型インフルエンザ流行を振り返り「少数の国がすべての供給分を買い占め、残りの国は全く手に入らなかった。もし深刻な流行になっていたら多くの人が亡くなっただろう。今回の共同購入が成功しなければ、また同じことが起こりうる」と述べ、各国の最終的な支払額は未確定ですが、平均すると1回分のコストは約920円になるとしました。また、国が複数社と単独で交渉する場合、それらすべてのワクチンの開発が失敗する可能性もあるので、その場合は獲得競争の最後尾に回ることになるとし、COVAXは現在開発中のワクチン候補13種類を対象とすることから、リスク低減の観点からもCOVAXへの参加意義を強調されました。

2020年08月30日

---

## ノーベル平和賞受賞のムクウェゲ医師に 殺害予告

国連のパチエレ人権高等弁務官は28日、紛争下の性暴力と闘い、2018年にノーベル平和賞を受賞したコンゴ(旧ザイール)東部の産婦人科医デニ・ムクウェゲ氏への殺害予告が急増しているとして、深刻な懸念を表明しました。

デニ・ムクウェゲ医師は、コンゴの産婦人科医。第二次コンゴ内戦以降の長年にわたり、紛争下の混乱によって性被害にあった女性や子どもを治療し、その精神的ケアに取り組んでいます。2018年にはその功績が認められノーベル平和賞を受賞されています。

紛争下における支援活動は決して安全とは言えません。アフガニスタンで人道・復興支援にあっていた日本人の中村哲医師(当時73)が、昨年12月、武装勢力に襲撃され、亡くなったニュースは、皆さんの記憶にも新しいかと思います。

ムクウェゲ医師も8年前に実際に襲撃にあったことがあり、警備員の方が亡くなっています。

本当に困っている人のために現場の最前線で汗を流している方に身の危険が生じることはあってはなりません。そうした方々が、安心・安全に活動を続けられるようなサポート体制が構築されることを願ってやみません。

2020年08月31日

## 首相辞任表明に思いやりの言葉

風雲急を告げるというのはこのことでしょうか。28日、連続在任日数が歴代最長を更新したばかりの安倍首相が辞意を表明されました。それを受けた翌29日(土曜)の読売新聞の紙面に、当団体主催の「サンキューセミナー」や「GGG+フォーラム東京・思いやりサミット」にご登壇いただいた国立国際医療研究センター・国際感染症センター長の大曲貴夫先生が、厳しい舵取りをしてこられた首相に思いやりの言葉と、緊急事態宣言の発令に踏み切られたことに感謝を述べられていました。

